

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

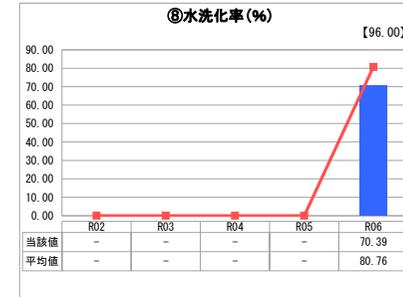
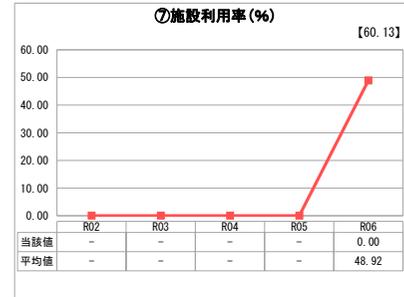
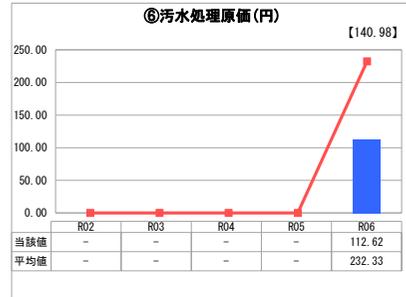
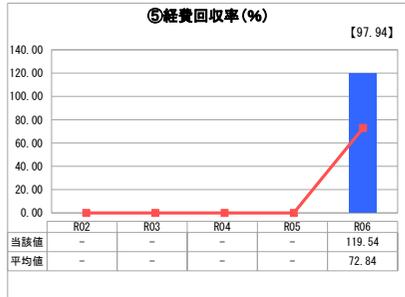
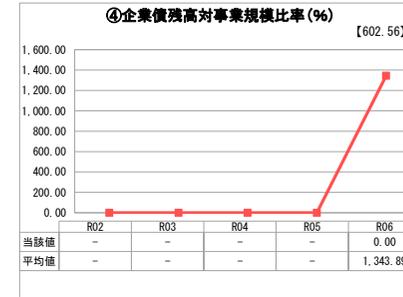
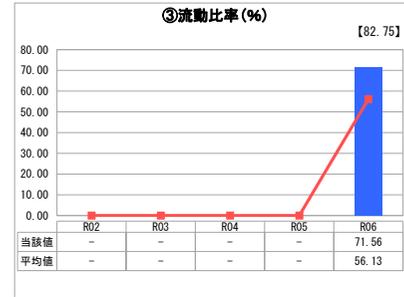
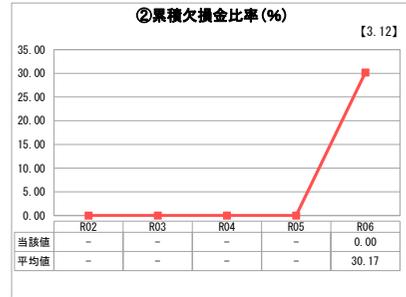
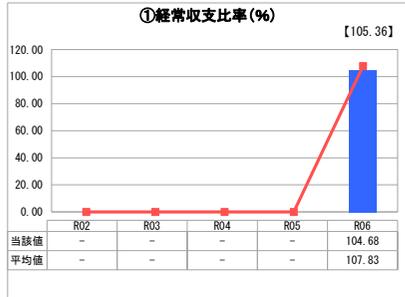
宮崎県 綾町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	65.38	60.55	111.46	2,680

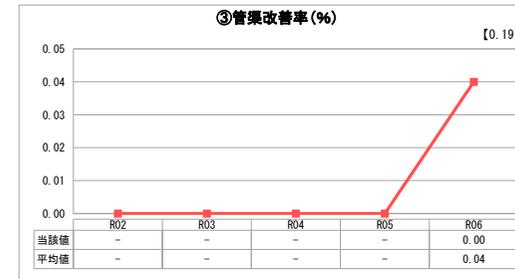
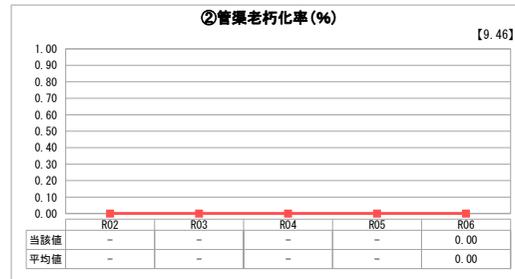
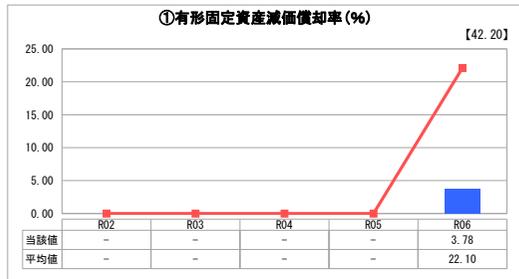
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,785	95.19	71.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,049	1.83	2,212.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[ ] 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は100%を超えているが、収入の半分以上を占める繰入金によるところが大きく、収支構造を改善して、繰入金を減らすことが課題となる。
- ②法適用初年度であり、欠損金は発生していない。
- ③流動比率は平均を上回っているが、将来の施設更新需要による資本費の増加も見据えて、適正な範囲の現金の確保に努めなければならない。
- ④企業債償還金分については、一般会計が全額を負担する取決めがあるため、0となった。
- ⑤資本費を除く経費の全額を使用料で回収できている。
- ⑥平均値よりかなり低く抑えられているが、動力費としての電気代高騰を含む物価高騰により、今後は上昇していくことが見込まれている。
- ⑦当該数値は、記入誤りにより0となっているものであって、本来の数値は80.44となる。処理能力に対して、雨天時の短期的な流入増を加味すれば、ほぼ限界となる数値である。その反面、施設をフル活用していることが経費回収率の高さや汚水処理原価の低さに繋がっている。
- ⑧平均値より低い状況にあり、更なる加入促進に努めなければならない。

### 2. 老朽化の状況について

事業開始後22年であり、重要設備については定期更新に努めているが、長寿命化が図れる設備については、インシデントさえ発生しない範囲において、耐用年数経過後も使用している状況。管路については、耐用年数が50年であるが、重大事故が発生しやすい設備でもあるので、点検に努めていく。

## 全体総括

昨今の物価高騰や本格的な人口減少社会を迎えて、経営環境は増々厳しいものとなってきている。収支構造を改善するための料金改定だけでなく、人口規模に合わせた設備のダウンサイジングを図るのか、し尿処理施設を統合する規模拡大を図るのか、経営の方向性の重要な局面に立たされている。全庁的な議論を深めて、早急な方向性を見出さなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。